

CHIBA^{No. 3}

千葉県は、空港旅客数で国内1、2位を誇る成田国際空港および羽田空港からのアクセスに優れ、国内外各都市からの豊富なネットワークを強みとしている。また、伝統的な街並みや酒蔵、温泉、テーマパークなど多様な観光資源が存在するほか、食の魅力にもあふれ、豊かな自然や地域の特性を活かしたスポーツイベントの開催も盛んである。



千葉県人口
628万人

千葉県GRP
21.3兆円



STRENGTHS

千葉の強み・特徴



地域特性を活かした 再生可能エネルギー の導入

- 立地環境が良く、導入容量全国2位を誇る太陽光発電設備や陸上風力発電設備が多数設置されているほか、太平洋岸の沖合では大規模な洋上風力発電設備の設置計画が進められるなど、地域特性を活かした再生可能エネルギーが導入されている。また、東京湾臨海部では、木質バイオマスを活用した大型発電設備が稼働しており、今後は下水汚泥などのバイオマスの活用も期待される。



バランスの取れた 産業構造と 多様な自然環境

- 素材・エネルギー産業の集積や、全国屈指の産出額を誇る農林水産業など、バランスの取れた産業構造を形成。
- 干潟や長大な砂浜、川や沼などの多様な水辺空間や緑豊かな山々が連なる丘陵など、恵まれた自然環境が広がり、各地域には、それぞれ特徴のある文化が息づいている。



千葉県は首都圏に位置しながら自然環境に恵まれ、農林水産業に強みを有しており、地場産物の魅力発信にも取り組んでいる。

代表的な国際会議

- 国際シロイヌナズナ研究会議(2023年)
- 第16回国際航法学会世界大会(2018年、約350名)
- 第10回アジア環太平洋音声言語聴覚学会(2017年、約500名)
- Gastech Japan 2017(約5,500名)



STRATEGIES

千葉のサステナビリティに関する戦略・計画

千葉県のSDGs戦略

千葉県総合計画

- 県政の様々な分野において、県が目指すべき方向性とSDGsの考え方は共通しており、千葉県総合計画で掲げる政策・施策の着実な推進が、SDGsで目指す社会の実現に繋がる。
- SDGsの推進は、未来の千葉県を築いていくためには欠かせないことから、施策横断的な視点で取り組むことが計画されている。

二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言

- 千葉県は2021年2月に「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言」を行い、国が目指す「2050年カーボンニュートラル」の達成に向け、県民や事業者、市町村が協力して地球温暖化対策を推進することを宣言した。
- カーボンニュートラルに向けた取り組みは、様々な分野に関係するとともに、持続可能な千葉県を残していくうえで欠かせないことから、施策横断的な視点で推進が図られている。

千葉県内の主要MICE開催都市の特徴を活かしたサステナブルな取り組み例

千葉県内に存在する4つの主要MICE開催都市では、各都市の特徴を活かしたサステナブルな取り組みが実施されている。

千葉市

恵み豊かな自然を擁し、かつ充実した都市機能の発達による高い利便性も備えており、電力の自給自足やグリーンツーリズムを実施している。2022年11月には環境省から「脱炭素先行地域」に選定されている。

木更津市

里山や里海が織りなす素朴な自然に触れながら、多様なライフスタイルを実現できる環境が維持されており、オーガニックシティを掲げたまちづくりに取り組んでいる。

成田市

江戸情緒あふれる町並みなどの伝統的魅力と、成田国際空港の立地に伴う国際色豊かな魅力が融合した都市であり、観光人材の育成や伝統文化の継承に取り組んでいる。

浦安市

テーマパークやホテルなどが集結し、海外からも多くの人が集うため、多様性を受け入れるための体制構築が進んでおり、人権尊重のためのパートナーシップ宣言制度を創設している。

ちばSDGsパートナー登録制度と ちばSDGs推進ネットワーク

千葉県は2021年に、企業や団体などによる自発的な取り組みを後押しするため、「ちばSDGsパートナー登録制度」を創設。環境・社会・経済におけるSDGsの取り組みの推進と目標の設定が要件となっており、登録されると千葉県ホームページで取り組みが紹介される。(2023年1月30日時点で1,614団体が登録)。また、制度の趣旨に賛同した県内金融機関・経済団体に県が加わり発足した「ちばSDGs推進ネットワーク*」は、官民が連携してSDGsや制度の啓発に取り組んだことが評価され、2023年2月に内閣府の「地方創生SDGs金融表彰」を受賞した。



千葉県PRマスコットキャラクター チーパくん

* 県内企業のSDGsの取り組みを支援し、地域経済の持続的な発展に資することを目的としたネットワーク

魅力ある千葉の産物と郷土料理の提供

千葉県には、新鮮な海・山・里の幸が豊富にあり、これらを利用した千葉県ならではの郷土料理が存在する。

代表的な郷土料理である太巻きずしは、農林水産省選定の「農山漁村の郷土料理百選」に選ばれており、幕張メッセで開催されたG20の会合で提供されるなど、国際会議でも千葉の産物が活用されている。

千葉市では、市内産農畜産物を積極的に活用、販売する飲食店などを「千葉市つくたべ推進店」として47店舗(2023年1月末時点)登録しており、地産地消が図られている。



千葉県産の野菜



太巻きずし

伝統芸能を活かしたアトラクションの提供

ちば国際コンベンションビューローでは、海外MICE主催者向けに、千葉県内の歴史的資産を活用したユニークベニューや伝統芸能を多数紹介している。

伝統芸能を活用したプログラムの一つとして、日本で唯一料理の祖神を祀る「高家神社」における「包丁式」の観覧もプランに含まれている。包丁式は日本料理の伝統を伝える厳粛な儀式で、古式に則った熟練の包丁さばきを目の当たりにできる。

千葉の歴史ある伝統芸能や文化体験をMICEのプランに組み込むことで、世界にその魅力を発信し、認知度向上を図るとともに、伝統の継承を図っている。



包丁式

コンベンション施設におけるサステナブルな取り組み

千葉県内のコンベンション施設では、サステナブルな取り組みが積極的に実施されている。

千葉県の代表的なコンベンション施設であり、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の会場にもなった幕張メッセでは、高いレベルのバリアフリー設備を完備。車椅子利用者向けに、施設内および周辺エリアのバリアフリーマップも策定している。

木更津市のかずさアークは、周囲を豊かな緑と水に囲まれた複合施設であり、環境への取り組みを実施。併設ホテルでは、バスアメニティのミニボトルの廃止、レストランでの紙製ストローの導入などにより、プラスチック削減が積極的に進められている。



幕張メッセ



かずさアーク

千葉市：自動運転モビリティの導入による移動負担の軽減

幕張メッセが位置する幕張新都心では、自動運転モビリティなどの導入により、拠点間の移動負担を軽減することで、回遊性の向上と賑わいの創出を図っている。2019年に開催されたCEATEC2019(Combined Exhibition of Advanced Technologies)では、幕張メッセ国際展示場を発着場所として周回する自動運転走行バスの実証実験が実施された。

今後の幕張新都心でのMICE開催においても、誰もが拠点間を便利で快適に移動できる環境・仕組みづくりに取り組むことが計画されている。



©千葉市

自動運転走行車



©千葉市

パーソナルモビリティ

成田市：環境にやさしい空港の実現を見据えた取り組み

成田国際空港では、2050年度に向けた気候変動対応の方向性を示す「サステナビリティNRT2050」を策定。2050年度に成田国際空港株式会社グループが排出するCO₂をネットゼロにすることなどを目標に掲げている。

目標達成に向け、同空港では太陽光発電、建築物のカーボンニュートラル化、購入電力の再エネ化、航空灯火のLED化、車両の低公害化などの取り組みを実施。国際空港のサステナブルな取り組みは、MICE開催に伴う環境負荷の低減に寄与している。



成田市さくらの山(公園)



©成田国際空港株式会社

成田国際空港

木更津市：SDGsを学ぶ教育プログラムの提供

木更津市のサステナブルファーム&パーク KURKKU FIELDSでは、有機農業の実施や自然エネルギーの活用、動物の糞尿の堆肥利用など、サステナブルな取り組みを実施。

また、こうした取り組みを体験を通じて来場者に紹介し、自分ごととして考えてもらう教育プログラムを学生、企業向けに開催している。さらに、体験の背景にある社会課題とその解決策を考えるワークショップなど、ニーズに合わせた体系的な学びの機会も提供している。これらのプログラムをインセンティブツアーに組み込むことで、参加者のサステナビリティに関する意識醸成と、企業のSDGsに係る取り組みの推進にも繋がっている。



糞尿の堆肥



ワークショップ

浦安市：ゼロカーボンシティの実現に向けたカーボンオフセット協定

浦安市は、県の北東部に位置し、豊かな森林を有する山武市と「浦安市と山武市の連携による森林整備の実施に係る協定」を2022年に締結した。

本協定に基づき、浦安市が山武市の森林整備費用の一部を負担することで、その森林整備によって増加する二酸化炭素吸収量を、浦安市の二酸化炭素排出量と相殺している。



浦安市のリゾートホテル群



山武市の森林